志五反田遺跡

福岡県筑後市大字志所在遺跡の調査
筑後市文化財調査報告書
第92集

2010
筑後市教育委員会

序

本書は、平成21年度に筑後市教育委員会が発掘調査を行った志五反田遺跡の埋蔵文化財調査報告書であります。

今回の調査では、志地区で初めて弥生時代の集落周辺の遺跡が確認されました。この調査成果が今後の調査研究に活かされていくことを期待します。また、本書が地域における文化財保護への理解を深める一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、多大なご協力を賜りました関係者の方々に心より御礼申し上げます。

平成22年3月

筑後市教育委員会
教育長　城戸一男

例言

1. 本書は平成21年度に筑後市教育委員会が行った志五反田遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行った。出土遺物、図面、写真等は筑後市教育委員会で収蔵、保管している。発掘調査及び整理作業の関係者は第Ⅰ章に記している。
3. 本書に使用した図面の遺構図は吉村由美子が作成し、遺物実測及び図版浄書は横井理絵が行った。
4. 本書に使用した遺構・遺物の写真撮影は吉村が行った。
5. 今回の調査に用いた測量座標は国土調査法第Ⅱ座標系（日本測地系）を基準としている。
6. 本書に使用した遺構の表示は以下の略号による（筑後市における埋蔵文化財の取り扱いについて：2002に準拠している）。
   SK－土坑　SP－ピット　SX－不明遺構
7. 本書の編集、執筆は吉村が行った。

目次

Ⅰ. 調査経過と組織・・1
Ⅱ. 位置と環境・・・2
Ⅲ. 調査成果・・4
写真図版

Ⅰ．調査経過と組織

志五反田遺跡は筑後市大字志字五反田に所在する。県道八女瀬高線道路拡幅事業に伴い、平成19年12月に福岡県教育委員会が現地での試掘調査を実施した。試掘調査の結果、一部で遺物包含層が確認されたため、原因者である福岡県八女土木事務所と埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行った。道路は恒久構築物であるため、遺跡の確認された部分について本調査を実施することとなった。本調査については、平成20年12月に八女土木事務所から筑後市教育委員会に対し調査の依頼があったが、市教委はまず県教委と協議を行うよう要請した。その後、八女土木事務所と県教委による協議を経て、市教委に再度調査依頼があり、市教委が本調査を行うことで合意した。平成21年6月17日から同年7月28日まで現地での本調査を行い、整理報告書作成作業を平成22年3月に完了した。

発掘調査に関わる調査組織は以下のとおりである。

1）平成19年度（事前審査）

総括	教育長	城戸　一男
	教育部長	平野　正道
庶務	社会教育課長	田中　僚一
	文化スポーツ係長	北島　鈴美
	文化スポーツ係	永見　秀徳
		小林　勇作
		上村　英士
		吉村由美子（嘱託）

2）平成21年度（調査、報告書作成）

総括	教育長	城戸　一男
	協働推進部長	田中　僚一
庶務	社会教育課長	山口　辰樹
	社会教育係長	田中　純彦
	社会教育係	小林　勇作
		上村　英士
		中島　征弘
		吉村由美子（嘱託：本調査・報告書担当）

3）発掘調査参加者

石橋香代美・今山三咲子・河添　幸子・下川　義文・堤　義弘・富安　英子

4）整理作業参加者

野口　晴香・野間口靖子・横井　理絵

Ⅱ．位置と環境

1．地理的環境

筑後市は福岡県の南西部、筑紫平野の中央部に位置する。市域をJR鹿児島本線と国道209号が縦断し、国道442号が横断する。また、市南西部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、潅漑用の溜池が点在する。低位扇状地である東部や、低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域には果樹園や茶畑、東部には米麦中心の田園地帯が広がる。市街地は国道に沿って市の中心部に形成されている。

2．歴史的環境

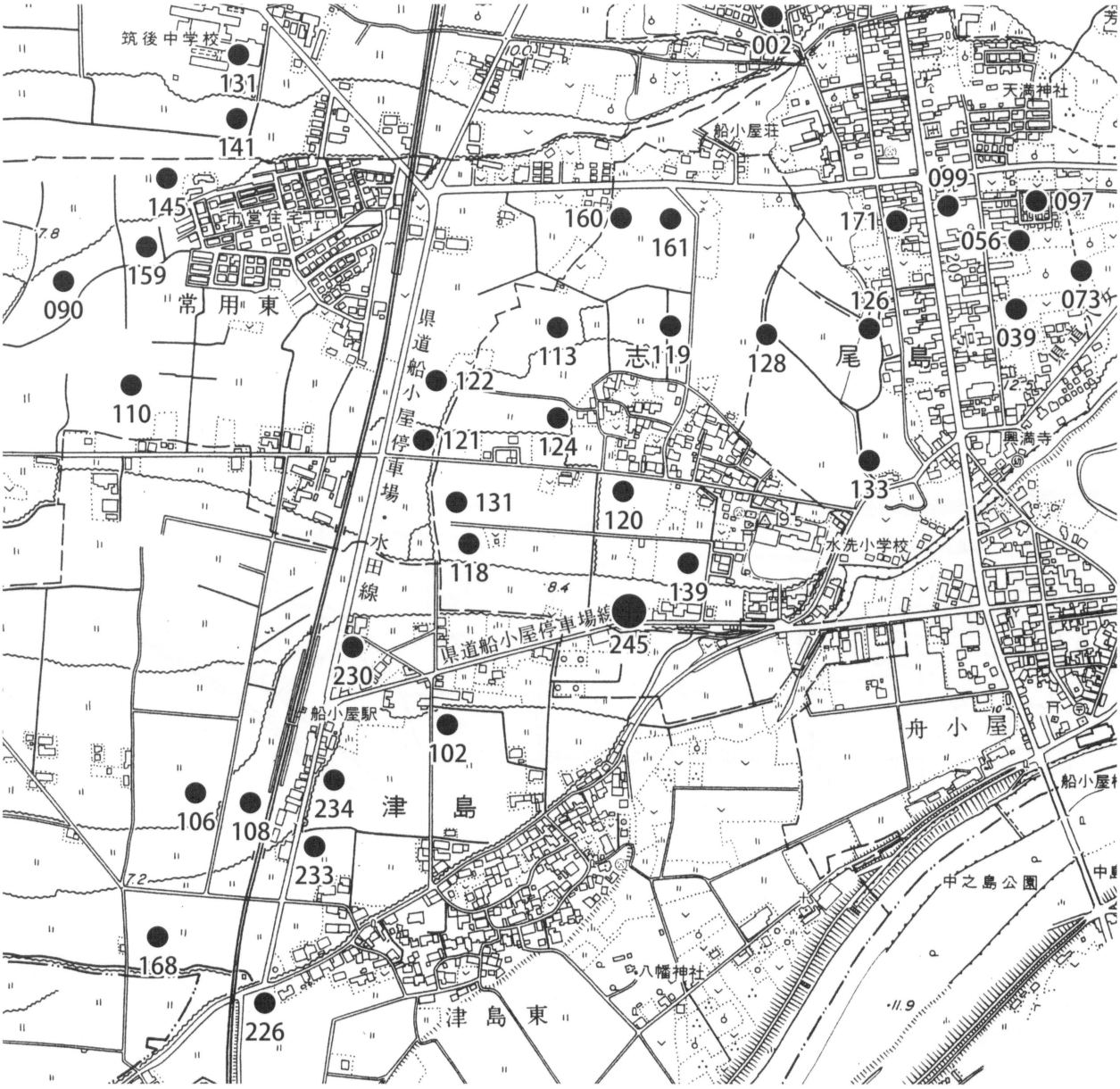
筑後市内の縄文遺跡は、市域の南東部、標高7～20m程の低台地上に集中することが指摘されており、早期の押型文土器が採集された裏山遺跡が著名である。志地区でも、志西野々遺跡【註1】、志前田遺跡【註2】、志西田遺跡【註3】で石組炉・落し穴等が検出された他、踏査により縄文遺物包含層の広がりが確認されている。

調査地周辺では、弥生時代の遺跡はあまり調査事例がないが、北西の常用地区では常用長田遺跡【註4】、常用日田行遺跡【註5】をはじめとした弥生時代前期の集落遺跡が確認されている。南西の津島地区では津島野内遺跡【註6】で弥生中期後半～後期の甕棺墓・竪穴住居等が確認されたほか、津島餅町遺跡（2次）【註7】で後期の大型住居が検出され、当該地域の中心集落の存在が想定される。

その他、周辺の遺跡としては古代～中世に比定される志上婦計遺跡【註8】、尾島前田遺跡【註9】、近世の水路跡が検出された志下婦計遺跡【註10】などが挙げられるが、いずれも調査面積が狭小なこともあり、遺跡の全容は明らかになっていない。

【註】

1. 立石真二「志西野々遺跡」『筑後西部第2地区遺跡群（Ⅲ）』筑後市文化財調査報告書第27集 筑後市教育委員会 2000
2. 立石真二「志前田遺跡」『筑後西部第2地区遺跡群（Ⅲ）』筑後市文化財調査報告書第27集 筑後市教育委員会 2000
3. 小林勇作「志西田遺跡　第1次調査」『筑後西部第2地区遺跡群（Ⅶ）』筑後市文化財調査報告書第51集 筑後市教育委員会 2003
4. 永見秀徳『筑後西部第2地区遺跡群（Ⅵ）』筑後市文化財調査報告書第50集 筑後市教育委員会 2003
5. 小林勇作「常用日田行遺跡（第1・2次調査）」『筑後西部第2地区遺跡群（Ⅷ）』筑後市文化財調査報告書第57集 筑後市教育委員会 2004
6. 小林勇作・吉村由美子「津島野内遺跡（第1次調査）」『九州新幹線関係遺跡』筑後市文化財調査報告書第89集 筑後市教育委員会 2009
7. 永見秀徳・吉村由美子「津島餅町遺跡（第2次調査）」『九州新幹線関係遺跡』筑後市文化財調査報告書第89集 筑後市教育委員会 2009
8. 永見秀徳「志上婦計遺跡　第1次調査・第2次調査」『筑後西部第2地区遺跡群（Ⅶ）』筑後市文化財調査報告書第51集 筑後市教育委員会 2003
9. 永見秀徳「尾島前田遺跡　第1次調査」『筑後西部第2地区遺跡群（Ⅶ）』筑後市文化財調査報告書第51集 筑後市教育委員会 2003
10. 立石真二「志下婦計遺跡（第1・第2次調査」『筑後西部第2地区遺跡群（Ⅲ）』筑後市文化財調査報告書第27集 筑後市教育委員会 2000



※遺跡番号は当市採用の調査番号

調査番号	遺跡名	調査番号	遺跡名	調査番号	遺跡名
002	裏山遺跡（第1次調査）	113	志野添遺跡（第1次調査）	141	水田上仁良葉遺跡（第1次調査）
031	水田山伏遺跡（第1次調査）	118	志西野々遺跡（第1次調査）	145	水田上仁良葉遺跡（第2次調査）
039	鶴田中市ノ塚遺跡（第1次調査）	119	志上婦計遺跡（第1次調査）	159	常用ニラバ遺跡（第1次調査）
056	鶴田中市ノ塚遺跡（第2次調査）	120	志前田遺跡（第1次調査）	160	志藪ノ内遺跡（第1次調査）
073	鶴田中市ノ塚遺跡（第3次調査）	121	常用野中遺跡（第1次調査）	161	志八反田遺跡（第1次調査）
090	常用日田行遺跡（第1次調査）	122	志下婦計遺跡（第1次調査）	168	津島九反坪遺跡（第1次調査）
097	鶴田中市ノ塚遺跡（第4次調査）	124	志下婦計遺跡（第2次調査）	171	尾島町囲遺跡（第1次調査）
099	鶴田中市ノ塚遺跡（第5次調査）	126	尾島下町裏遺跡（第1次調査）	226	津島洲崎遺跡（第2次調査）
102	津島西美田遺跡（第1次調査）	128	志上婦計遺跡（第2次調査）	230	津島野内遺跡（第1次調査）
106	津島北石伏遺跡（第1次調査）	131	志西田遺跡（第1次調査）	233	津島餅町遺跡（第1次調査）
108	津島皿ヶ町遺跡（第1次調査）	133	尾島前田遺跡（第1次調査）	234	津島餅町遺跡（第2次調査）
110	常用野々下遺跡（第1次調査）	139	志垣添遺跡（第1次調査）	**245**	**志五反田遺跡（第1次調査）**

Fig.1　周辺遺跡分布図（1/10,000）

Ⅲ．調査成果

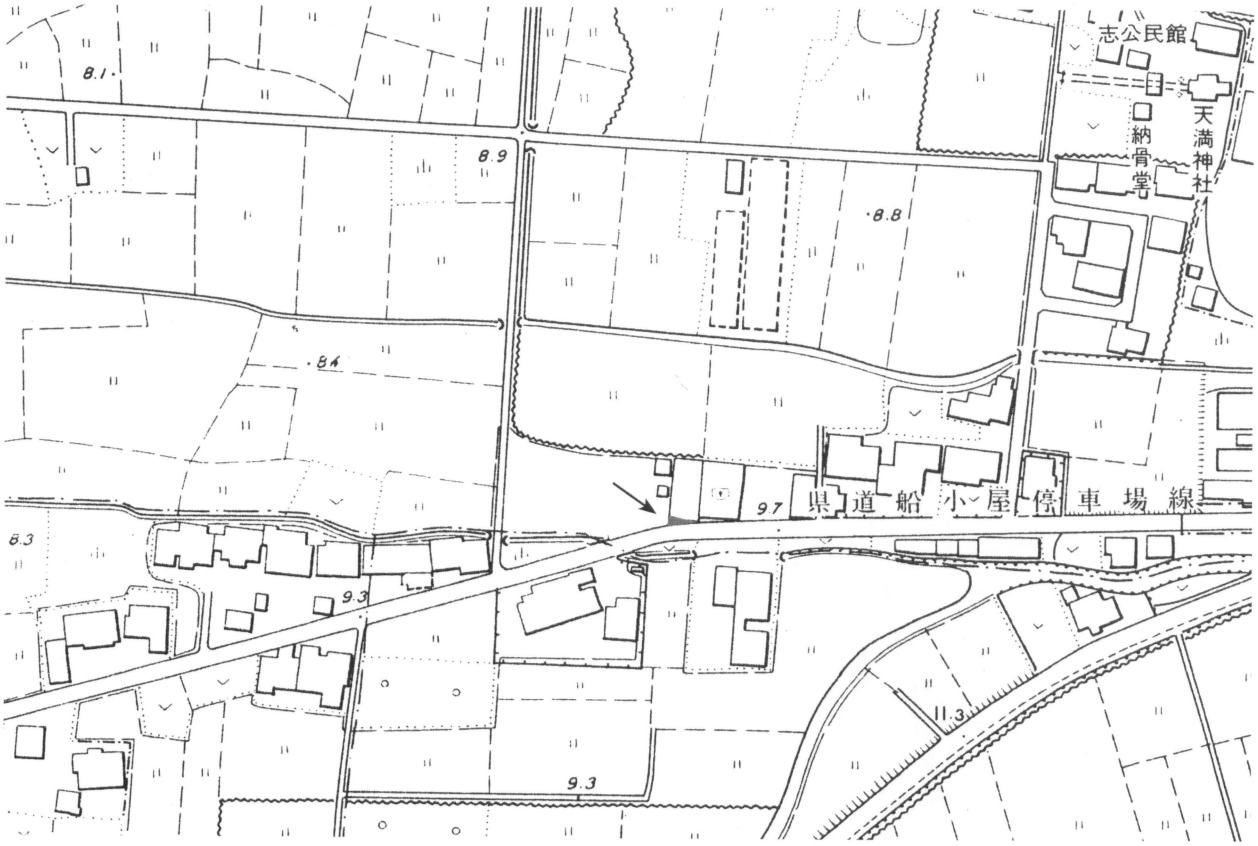


Fig.2　調査地点位置図（1/2500）

（1）　はじめに

道路拡幅部分のうち、掘削が可能な約 45 ㎡に調査区を設定した。調査は吉村が担当し、平成 21 年 6 月 16 日より開始した。遺構の掘削は (有) 徳光建設に委託し、表土・旧耕作土等を除去した後、遺物包含層を数回に分けて剥取し、内容確認を行った。遺構面からは地元作業員による手作業の掘削を行い、平成 21 年 7 月 28 日に調査を終了した。

（2）　検出遺構

土坑

SK01（Fig.3、Pla.2･3)

調査区西側で検出された土坑である。長軸 2.1m、短軸 0.7 m、深さは 0.25 ～ 0.1m を測り、北側は徐々に浅くなる。埋土は主に暗灰褐色粘質土で、弥生時代中期に属する土器（甕・壺・器台・片）が出土している。

SK05 (Fig.6)

調査区南東で検出した。遺構の南側は調査区外へ展開するため全容は不明であるが、、平面形態は円形を呈すると思われる。検出された最大長は 1.1m、深さは 0.2 mである。弥生土器片が少量出土しているが、いずれも図示不能な細片であった。

SK10 (Fig.3、Pla.4)

調査区東端で検出した。平面形態は長方形で、長軸 1.4m、短軸 0.6 mを測る。断面は逆凸字形を呈し、深さは上段で 5 ㎝、下段で 15 ㎝程である。埋土は暗灰褐色粘質土の単一土層で、弥生土器（甕･片）が出土している。

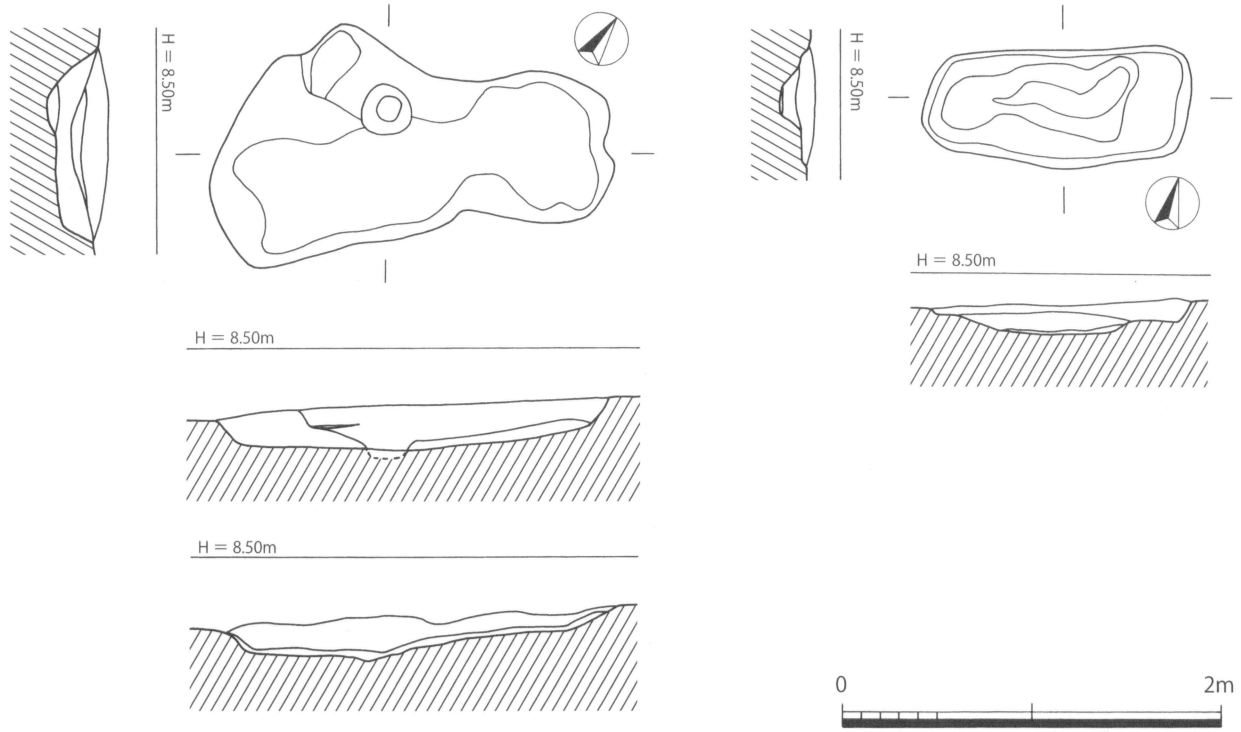


Fig.3　SK01・SK10 遺構実測図（1/40）

ピット

SP03（Fig.6）

調査区の北西端で検出された。上面の直径は 0.2 m、深さは 0.2m を測る。出土遺物は弥生土器片があるが、図示不能な細片であった。

SP06（Fig.6）

SK01 の東側で検出された。上面の直径は最大で 0.3m、深さは 0.1m 程である。弥生土器片が出土している。

SP08（Fig.6）

平面形態は楕円形を呈し、長軸 0.4m、短軸 0.3 mを測る。遺構の中央付近で緩やかな段がつき、深さは最大で 0.3 m程である。弥生土器片が出土している。

SP11（Fig.6）

SK10 の南西で検出した。上面の直径は 0.4m、深さは 5 ㎝程の浅い遺構である。弥生土器片が出土している。

SP12（Fig.6）

SK10 の南側で検出した。平面形態は楕円形に近く、長軸 0.3 m、短軸 0.2 m、深さは 5 ㎝程の浅い遺構である。弥生土器片が出土している。

SP13（Fig.6）

平面形態は円形で、南端は別のピットに切られる。直径 0.4m、深さは 0.25m を測る。弥生土器片が出土している。

不明遺構

SX02（Fig.6）

SK01 の南側に接して検出された、不整形な遺構である。遺構の南側は調査区外へ展開する。検出された最大長は 3.7m、深さは 0.1 ～ 0.2m で、南東に向かって徐々に深くなっていく様相を呈する。埋土はやや粘性の強い暗灰褐色粘質土の単一土層で、弥生時代中期に属する土器（甕・壺・片）が出土している。

SX04（Fig.6）

調査区北西で検出した。遺構の南側では浅い２つの土坑を切り、北側は調査区外に展開するため全容は不明である。検出された最大長は 0.5m、深さは 0.2 mを測る。弥生土器片が少量出土している。

SX07（Fig.6）

検出された最大長は 0.7 mで、北側は調査区外に展開するため遺構の全容は不明である。底面はほぼ平坦で、深さは 0.1m と浅いが、西側に深さ 0.2 m程のピット状の窪みがある。弥生土器片の他、直径 3 ㎝程の川原石が底面に整然と並んだ状態で出土した。

（3） 出土遺物

土坑

SK01（Fig.4、Pla.5）

弥生土器

甕（1 ～ 4） 1 は口径 24.6 ㎝を復元する破片で、口縁の断面形態は鋤先状を呈する。胴部外面は縦方向のハケ目による調整、内面は磨耗しているが、ナデによる調整と指頭痕が看取される。色調は内面淡灰褐色、外面淡茶色を呈する。2 は断面く字状を呈する口縁部片で、直径 6 ㎜程の穿孔が認められる。磨耗のため器壁の調整は不明。色調は内外面とも淡灰茶色。3 は口径 33.5 ㎝を復元する。口縁部の断面形態は鋤先状を呈し、胴部上位に断面三角形の薄い突帯を 1 条貼り付ける。内外面ともナデによる仕上げで、突帯下部に横方向の強いナデが見られる。色調は淡灰茶色を呈する。4 は底部片で、厚く台状を呈する。底面は僅かに上げ底となる。磨耗が著しいが、外面は僅かに縦方向のハケ目が確認できる。色調は内面淡灰茶色、外面淡橙茶色を呈する。

壺（5） 緩やかに外反する口辺部片で、口径 29.0 ㎝を復元する。口縁端部は折り返しにより玉縁状を呈する。外面はハケ目による調整の後、口縁部は横ナデを施す。内面は磨耗のため調整不明。色調は内外面とも淡灰茶色を呈する。

器台(6） 鼓形の器台で、脚部及び口縁部の約半分を欠損する。口径 8.7 ㎝、器高 13.3 ㎝を測り、脚部径 9.0 ㎝を復元する。口縁部は僅かに歪みが見られ、器高は一定しない。外面は縦方向のハケ目の後、端部を横ナデにより仕上げる。内面には明瞭な指頭痕が認められる。色調は内面淡灰褐色、外面淡茶色を呈する。

SK10（Fig.4、Pla.5）

弥生土器

甕（7） 口径 22.5 ㎝を復元する破片で、口縁は断面三角形を呈する。磨耗が著しいが、内外面とも横ナデの痕跡が認められる。色調は内面淡橙茶色、外面淡褐色を呈する。

器台（8） 脚部片である。器壁が厚く、作りはやや粗い。内外面とも指頭痕が認められる。磨耗が著しいため、調整は不明。色調は内外面とも淡茶色を呈する。

不明遺構

SX02（Fig.4、Pla.5）

弥生土器

甕(9・10） 9 は口径 28.9 ㎝を復元する破片で、口縁部の断面形態は三角形を呈し、上部に平坦面を作る。磨耗が著しく調整は不明で、内面に不明瞭な指頭痕が認められる。色調は内外面とも淡橙茶色を呈する。10 は底部片で、台状を呈する。底面は上げ底となる。外面には縦方向のハケ目を施す。色調は内面淡茶灰色、外面明橙茶色を呈する。

壺（11） 口径 21.4 ㎝を復元する破片である。頸部は外反し、口縁端部は方形を呈する。磨耗が著しいため調整は不明。色調は内外面とも淡橙茶色を呈する。

その他の出土遺物

遺構検出面（Fig.5、Pla.5・6）

弥生土器

蓋（12） 裾部を欠く破片である。摘み部分は中実で、上部に平坦面を作る。外面は縦方向のハケ目を

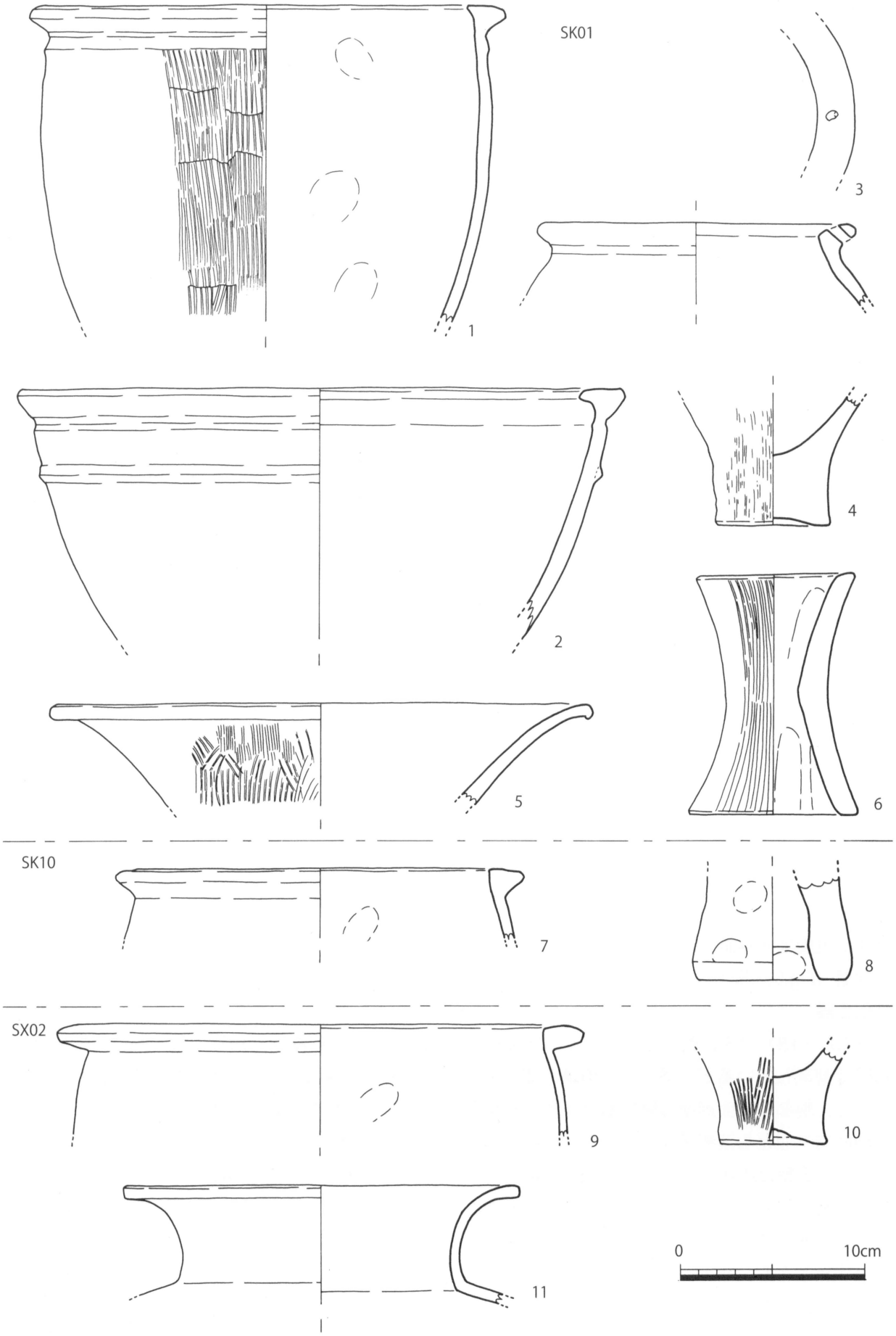


Fig.4　SK01・SK10・SX02 出土遺物実測図（1/3）

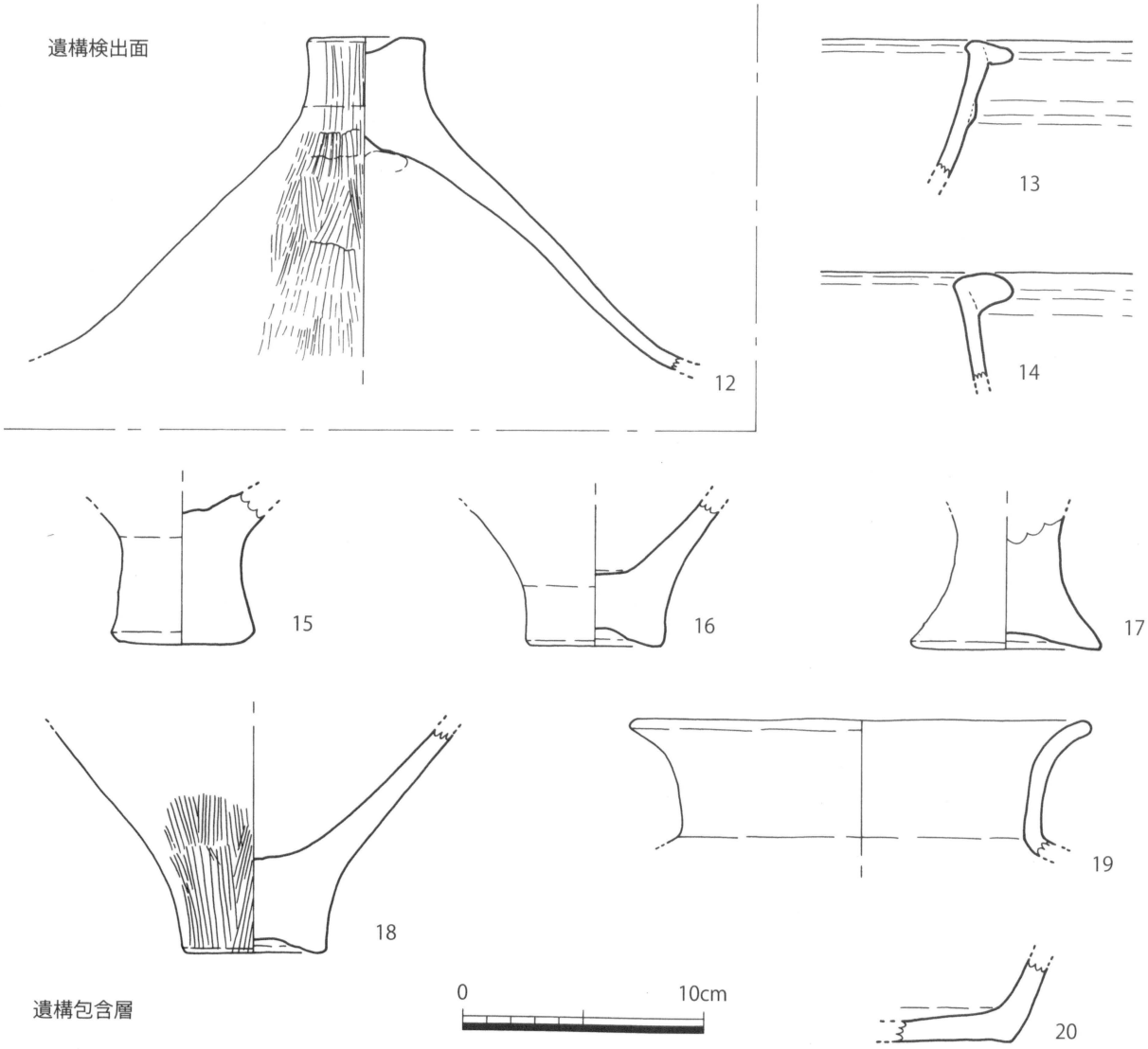


Fig.5　遺構検出面・包含層出土遺物実測図（1/3）

施す。色調は内外面とも淡灰茶色を呈する。

包含層（Fig.5、Pla.6）

弥生土器

甕（13 ～ 18）　13 は鋤先状を呈する口縁部片である。口辺下部に断面三角形の薄い貼付突帯を施す。器壁は磨耗しているが、横ナデの痕跡が認められる。色調は内外面とも淡灰茶色を呈する。14 は口縁部片で、端部の断面形態は肥厚した三角形を呈し、やや垂れ下がる。磨耗が著しいため、調整は不明。色調は内外面とも淡橙茶色を呈する。15 は底部片で、厚く台状を呈する。底面は平底となる。磨耗が著しく、調整は不明。色調は内外面とも淡橙茶色を呈する。16 はやや厚い底部片で、底面は上げ底となる。磨耗により、調整は不明。色調は内外面とも淡茶灰色を呈する。17 は厚い底部片で、裾はやや広がる。底面は僅かに上げ底となる。色調は淡赤茶色を呈する。18 はやや厚い底部片で、底面は僅かに上げ底となる。外面は縦方向のハケ目による調整を施す。色調は内面淡灰茶色、外面淡灰褐色を呈し、一部に黒斑がみられる。

壺（19・20）　19 は口径 19.4 ㎝を復元する破片で、口辺部は緩やかに外反する。磨耗が著しく、調整は不明。色調は内外面とも淡灰茶色を呈する。20 は底部片で、底面は平底となる。磨耗のため調整は不明。色調は、内面淡茶灰色、外面明橙茶色、底部外面は黒灰色を呈する。

(4) 小結

今回の調査では、厚さ 30 ㎝ほどの良好な遺物包含層が確認された。この包含層は南側がより厚く、南西に行くほど遺物の出土量が多くなる傾向が見られた。検出された遺構は土坑３基とピット等であった。ピットはいずれも浅く小規模で、住居跡などの性格を与えられるものではなかった。

これらの遺構および包含層からは、城ノ越式～須玖Ⅰ式までの弥生時代中期の土器が主に出土している。特に、城ノ越期の肥厚した台状の底部をもつ甕が特徴的である。

本調査地周辺では発掘調査事例が少ないということもあり、当該期の遺跡は殆ど知られていない。やや時期差があるが、津島皿ヶ町遺跡で中期後半の掘立柱建物が２棟、津島野内遺跡で同じく中期後半の竪穴住居２軒、津島餅町遺跡で後期の竪穴住居１軒が確認されたのみである。一方、本調査地点より北西 1km ほどの常用地区では常用長田遺跡で前期中葉～後半、常用日田行遺跡で前期末の竪穴住居が確認されている。これらの集落遺跡のうち、前期の集落が営まれた常用地区は標高７～ 8m の低位段丘上、中期～後期の津島地区は標高 7m 以下の低地もしくは湿地に展開する。こうした状況から、前期は水はけの良い土地を選んで集落が形成され、中期以降に周辺へ開発が進展するのに伴って南の湿潤な土地へも進出が行われたことが指摘されている【註１】。

今回の調査では集落そのものは確認されていないが、地理的にも時期的にも常用地区と津島地区の集落をつなぐ位置にあることから、調査地点周辺に弥生時代中期前半頃の集落が展開すると考えられる。ただし、調査面積が狭小で遺構の性格も十分に把握できていないため、可能性を指摘するにとどめたい。今後調査実績が増えれば、周辺)様相も徐々に明らかになってくると思われる。

【註】

1. 永見秀徳『筑後西部第２地区遺跡群 (Ⅱ)』筑後市文化財調査報告書第 26 集　筑後市教育委員会 2000

【参考文献】

小林勇作 編『筑後西部第２地区遺跡群 (Ⅷ)』筑後市文化財調査報告書第 57 集　筑後市教育委員会 2004

小林勇作 編『九州新幹線関係遺跡』筑後市文化財調査報告書第 89 集　筑後市教育委員会 2009

S-番号	遺構番号	性　格	時期	遺構の先後関係(古→新)
1	1SK01	土坑	弥生	1SX02→1SK01
2	1SX02	落ち?	弥生	1SX02→1SK01
3	1SP03	ピット	弥生	
4	1SX04		弥生	
5	1SK05	土坑?	弥生	
6	1SP06	ピット	弥生	
7	1SX07		弥生	
8	1SP08	ピット	弥生	
9	欠番			
10	1SK10	土坑	弥生	
11	1SP11	ピット	弥生	
12	1SP12	ピット	弥生	
13	1SP13	ピット	弥生	

Tab.1　遺構番号台帳

包含層

弥生土器	甕、壺、器台、高坏底部片
石器	石鏃未製品、黒曜石チャート、サヌカイト剥片

調査区壁面

弥生土器	甕口縁、片

遺構検出面

弥生土器	蓋、甕口縁、器台片、片
石器	黒曜石剥片

S-1

弥生土器	甕口縁、器台、底部片片

S-2

弥生土器	甕口縁、壺口縁、底部片　片

S-3

弥生土器	片

S-4

弥生土器	片

S-5

弥生土器	片

S-6

弥生土器	片

S-7

弥生土器	片
石器	石

S-8

弥生土器	片

S-10

弥生土器	甕口縁、器台、片

S-11

弥生土器	片

S-12

弥生土器	片

S-13

弥生土器	片

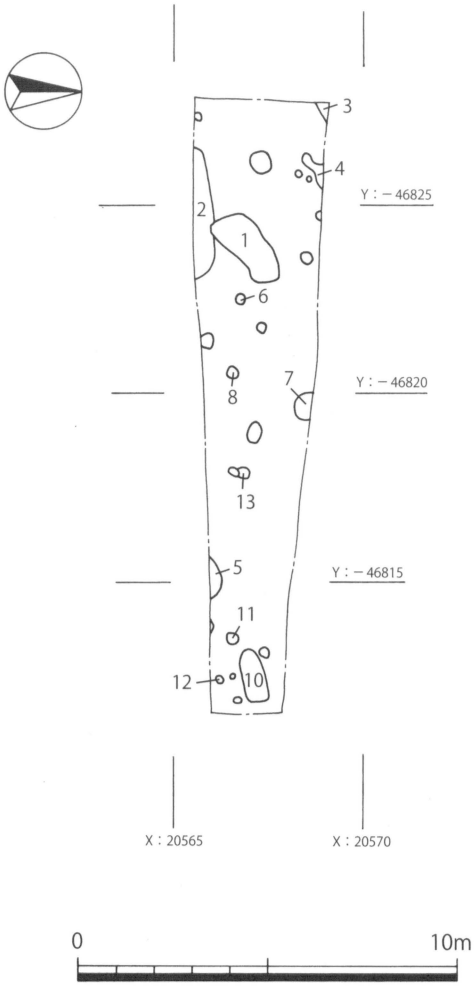
Tab.2　出土遺物一覧表

○→復元値・△→現存値

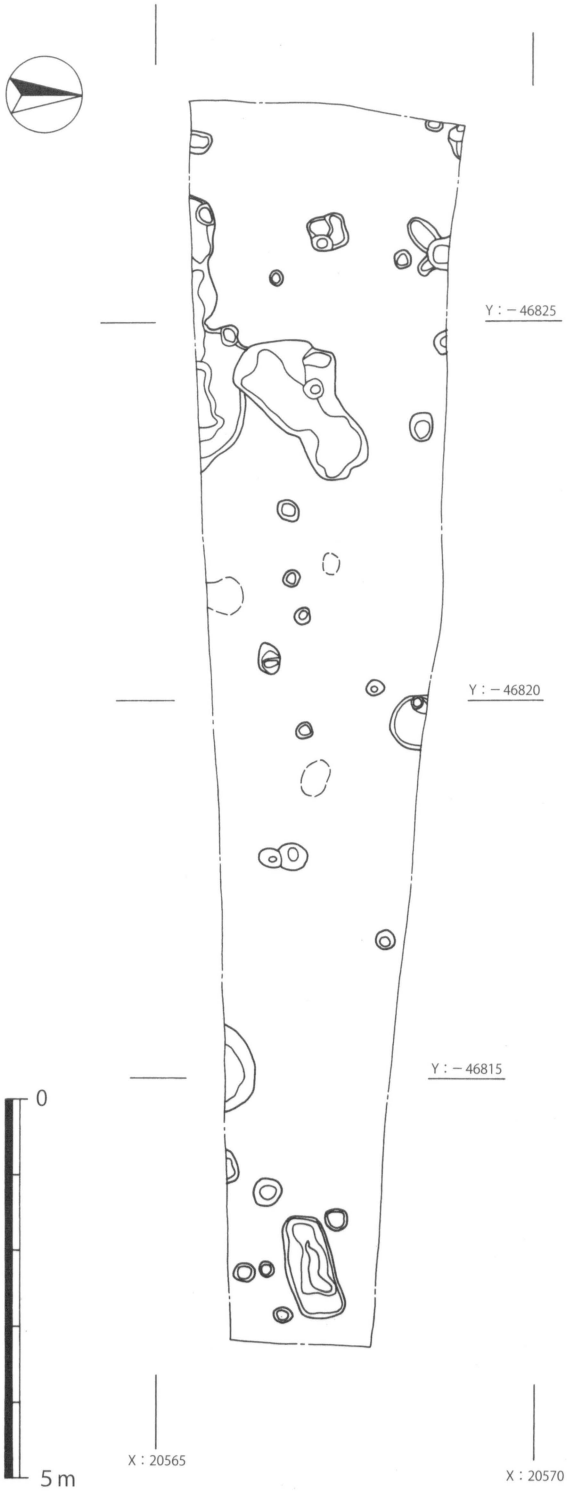
Fig.-No.	遺構番号	R-番号	遺物名	器種名	口径(cm)		器高(cm)		底径(cm)		残　存	備　考
4 － 1	1SK01	1	弥生土器	甕	○	24.60	△	17.30			口縁～胴部1/4	
4 － 2	1SK01	2	弥生土器	甕	○	33.50	△	13.70			口縁～胴部1/4	
4 － 3	1SK01	3	弥生土器	甕	○	16.40	△	4.50			口縁～胴部1/4	口縁部穿孔あり
4 － 4	1SK01	5	弥生土器	甕			△	7.15		6.00	底部のみ	
4 － 5	1SK01	4	弥生土器	壺	○	29.00	△	5.60			口縁部1/8	
4 － 6	1SK01	6	弥生土器	器台		8.70		13.30	○	9.00	口縁～底部1/2	
4 － 7	1SK10	1	弥生土器	甕			△	3.80			口縁部1/6	
4 － 8	1SK10	2	弥生土器	器台			△	5.60		8.00	底部3/4	
4 － 9	1SX02	1	弥生土器	甕	○	28.90	△	6.05			口縁～胴部1/6	
4 － 10	1SX02	2	弥生土器	甕			△	5.30		5.70	底部のみ	
4 － 11	1SX02	3	弥生土器	壺	○	21.40	△	6.50			口縁～口頸部1/6	
5 － 12	遺構検出面	1	弥生土器	蓋			△	13.80				
5 － 13	包含層	1	弥生土器	甕			△	5.80			口縁部破片	
5 － 14	包含層	2	弥生土器	甕			△	4.60			口縁部破片	
5 － 15	包含層	6	弥生土器	甕			△	6.45		5.20	底部のみ	
5 － 16	包含層	4	弥生土器	甕			△	6.20		5.50	底部のみ	
5 － 17	包含層	8	弥生土器	甕			△	5.60		7.40	底部のみ	
5 － 18	包含層	5	弥生土器	甕			△	9.55		5.60	底部と体部片	
5 － 19	包含層	3	弥生土器	壺	○	18.70	△	5.75			口縁部1/6	
5 － 20	包含層	7	弥生土器	壺			△	3.55			底部は片	

Tab.3　遺物観察表

遺構略測図



遺構全体実測図



基本土層図

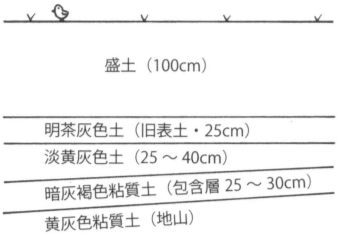
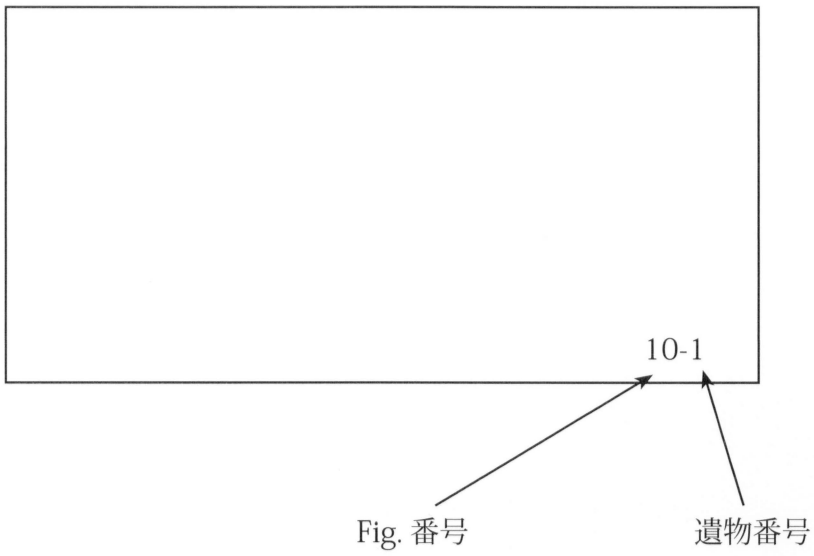


Fig.6　遺構略測図（1/200）・遺構全体実測図（1/100）・基本土層図

PLATE

凡　例

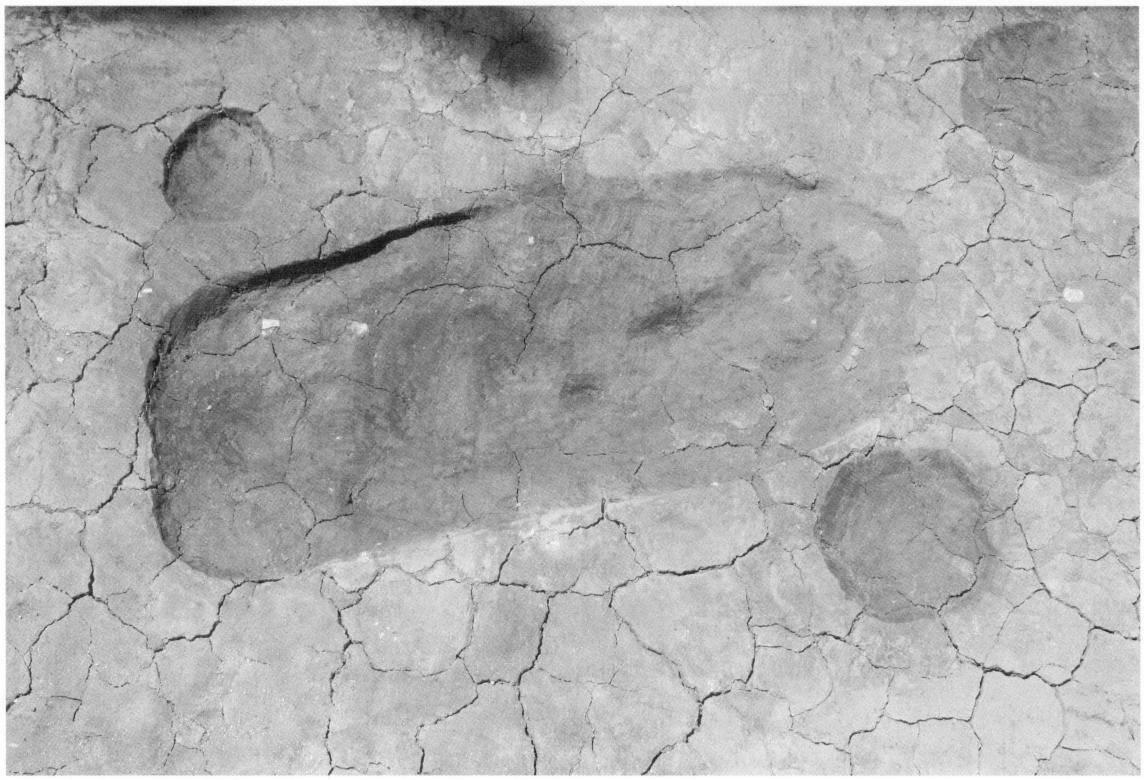
遺物写真右下の番号は以下のとおりである。



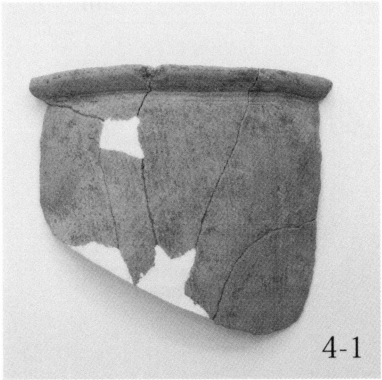
Pla.1　調査区全景（西から）

Pla.2　1SK01 土層断面

Pla.3　1SK01 完掘状況（北から）

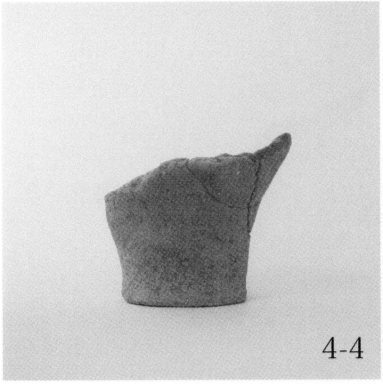


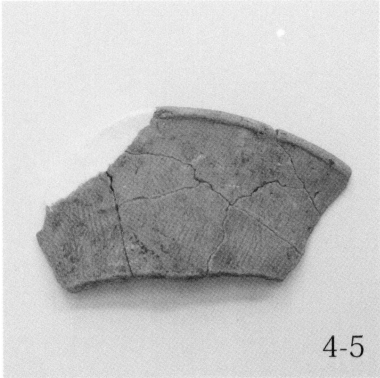
Pla.4　1SK10 完掘状況（北から）

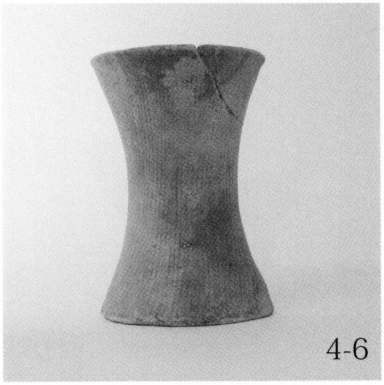

4-1

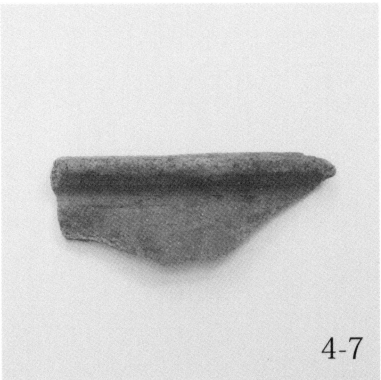
4-2

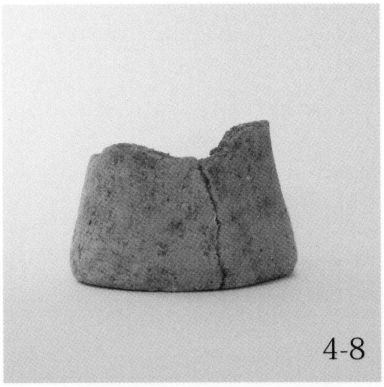
4-3

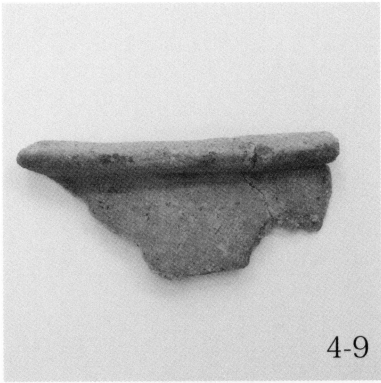

4-4


4-5

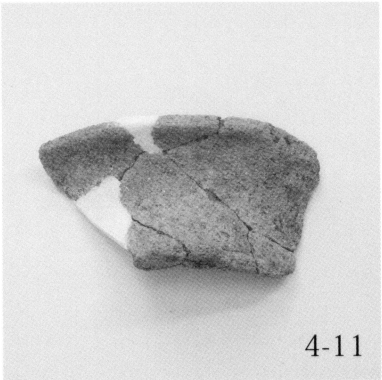

4-6


4-7


4-8


4-9

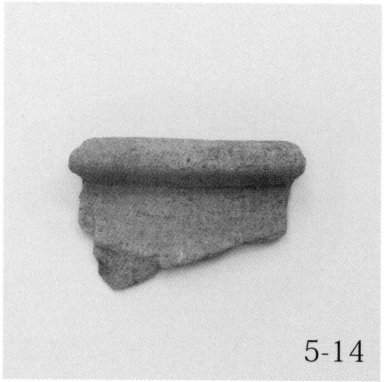
4-10


4-11

5-12

Pla.6

5-13

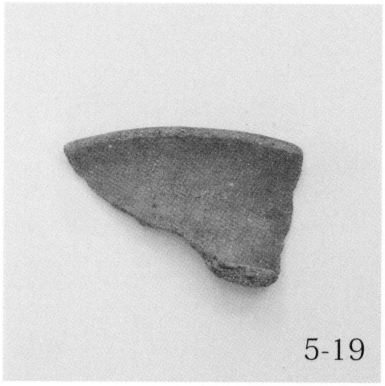

5-14

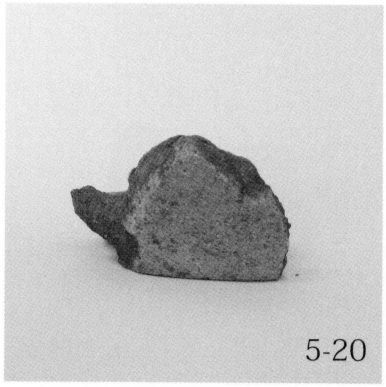
5-15

5-16

5-17

5-18


5-19


5-20

筑後市文化財調査報告書　第92集

志五反田遺跡

平成21年3月31日

発行　筑後市教育委員会

福岡県筑後市大字山ノ井898

TEL　0942-53-4111

印刷　マイ コピント

福岡県筑後市野町423-8